

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第8回高松市創造都市推進懇談会（U40／2期）
開催日時	平成28年2月25日（木） 18時30分～20時30分
開催場所	市役所3階 32会議室
議 題	・平成27年度第1回高松市創造都市推進審議会の内容報告 ・U40メンバーの近況報告
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	鎌田委員、坂口委員、高島委員、田中委員、中筋委員、西成委員、英委員、人見委員、広野委員、真鍋委員、森委員、山家委員、若宮委員
職 員	佐々木、平田、永木、中村、内海、藤本、山田
傍 聴 者	0人（定員 5人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

1 開会

2 平成27年度第1回高松市創造都市推進審議会の内容報告

事務局から議事録のキーワードを中心に説明。

人見会長

- ・11月の公開U40については、審議会委員の方から非常に高い評価をいただいていた。それとあわせて、民と官が力をあわせて創造都市をひっばっていかないといけないよねという話があり、民間側の期待を一手にU40によせているように感じたが、U40そのものは事業主体にはなれないので、みなさんが本業の中で、そういった方向性をひっばっていくことがおとしどころかと思う。特に調査事業や情報発信というところを期待されていたように感じた。

3 U40メンバーの近況報告

人見会長

- ・事前に事務局からのメールにもあったが、今回のU40では、この会の役割の1つでもある「メンバー同士の交流」に着目し、（市職員を除く）U40メンバーの近況報告をひとり5分程度発表していただく。発表後に、それぞれ聞いているメンバーがコメントシートを記入し、後で本人に渡したい。

## 審議経過および審議結果

### 山家委員

- ・1月に創造都市推進審議会に初めて参加。U40とは雰囲気は違ったが、審議会でも為になる情報をたくさん得られた。
- ・2月28日に、県内の地域スポーツクラブ連絡協議会とNPO法人遍路とおもてなしのネットワークのコラボで、1日おもてなし遍路のイベントを行う。66番札所から88番札所を、12区間にわけて、一緒に歩くイベント。おもてなしの視点で歩き、ここでの気付きを今後活かすというもの。200名以上参加予定。四国遍路の世界遺産登録につなげていければと思う。
- ・3月13日には空港公園でスロージョギングの体験会を行う予定。オリンピックに向けて、地域スポーツについても盛り上がってきているように感じている。
- ・長野県上田市で、女性スポーツ勉強会に参加。スポーツ庁の28年度予算の中で、女性アスリートの育成支援プロジェクトに3億8千万くらいついている。選手強化・医学面からの支援・女性コーチの育成という3本柱。女性のからだとスポーツの関係については、すべての指導者が学ぶべき内容。今回は栄養と生理がテーマ。陸上や体操などの身体の身軽さや美しさが求められる競技では、食事制限をかなり行う。エネルギー不足になりやすく、そうすると脳が妊娠している余裕はないと判断して無月経になる。すると、女性ホルモンが減少し、骨粗しょう症になりやすくなる。女性アスリートの中には、子どもを産めない身体になってしまった人もいる。公開U40の子ども・教育グループが性教育について発表したけど、女性のからだについて学ぶ機会があってもいいのかなと感じた。

### 森委員

- ・11月23日に開催したFLAG屋上でのイベントを企画担当した。当日はあいにくの雨だったがすごく多くを学んだイベントだった。
- ・メディアアート祭の関連で、商店街にステージを設けて発表の場づくりをした。人の動きを導くようなイベントづくりができたのが良かった。
- ・年が明けてからは、商店街のまちづくり会社の補助申請の準備をしている。
- ・3月にキャラフェスをFLAGで開催予定。
- ・アーティストインレジデンスの第3弾で、商店街を舞台にした演劇が明日から始まる。

### 若宮委員

- ・特に何か新しい動きがあるわけではないが、いまのところ3月20日からの瀬戸芸情報が気になる。冬場はバカンスじゃないから欧米からは少なく、台湾・香港は雪が見たいから北海道に行き、いまは日本人の大学生が春休みに入って動いているくらい。ただ、3月20日から堰を切ったように個室の予約が満室になっている。3月4月は外国人の予約でいっぱい。
- ・海外の人は5～7日間単位で長期間予約が入る。高松を拠点にしてくれることは高松側としてはありがたいことだが、予約時点の返信で、うちの宿泊を減らして島で泊まることを勧めている。高松を拠点に島巡りをすると、旅行者にとっては時間的にもお金的にもロスが多い。みんな島には宿がないと思っているし、島にあるゲストハウスや民泊では、外国人が使うブッキングドットコムなどのシステムを利用してなかったり、ホームページも日本語でしか書かれていない。瀬戸芸で外国からもお客様はたくさん来るが、細かい島の情報を知らなかったりするので、予約時点で、島の情報やフェリー・バスの情報も提供している。瀬戸芸はまだ始まってないけど、予約時点でそういう対応をしているので、瀬戸芸シフトになっている。
- ・高松にもゲストハウスが増えてきて、お客さんから競合が出来て大変ですねと言われるが、自分にはライバルが増えたという感覚はなく、むしろゲストハウス同士で細かく情報共有を行ったりして、みんなでお客様をお迎えする準備を進めている。
- ・宿泊客を国別でみると、まず日本、次にフランス、台湾・香港、中国本土・韓国

と続く。ヨーロッパ系は、夏のバカンスで1カ月近く滞在。成田から入ってJRの21日間パスなんかを使って日本中を巡る。ほとんど連泊で、アート目的が多い。アジア系は短期間で何回も来る。台湾、中国、韓国は直行便で来るお客が多い。

直行便があることが高松を選ぶ一つの理由になっている。高松周辺では道後温泉・鳴門の渦潮・祖谷・大歩危に訪れている。欧米とアジアの違いでいうと、島だと、アジアは小豆島（エンジェルロード、オリーブ公園は鉄板）、男木島（ネコが好き）を選ぶが、ヨーロッパはアート目的なので直島・豊島がメインで小豆島はあまり選ばない。ネコをみに男木島に行く人もいない。

- ・あまり小豆島の大きさを理解せずに行こうとしていることが多い。日本人ならレンタカーを案内できるが、外国人は国際免許書を持ってないとだめだから、公共交通機関しかない。島内の移動手段の案内、公共交通機関の案内、潮の時間を調べてあげるなど、ベストな観光プランをコーディネートしてあげている。直島はノープランでもなんとかなるが、小豆島はバスの本数も限られているし難しい。
- ・小豆島は港がたくさんあるのは便利だが、港間連携が全くないのが問題。マウンテンバイクでの観光も健康で体力のある人になら進められるが、レンタサイクルのシステムを乗り捨てOKにしないとロスが出て使い勝手が悪くなる。

#### 田中委員

- ・公開U40に参加できず申し訳なかった。公開U40前日に第2子が誕生し3カ月でスクスク大きく育っている。女の人が子育てをしながら働くことの難しさを感じている。うちの場合は、自分の店で仕事をしているのでその中でやりくりをしていけるが、周りの人たちの話を聞いていると、仕事をするしないに関わらず、社会参画をしていくことが難しく、子育てだけにとらわれないですむ環境が整っていないなど感じる。そんな課題を解決していけるようなアイデアを考えていければと思う。
- ・U40という場で公募委員として参加できたり、Iターン者ということで注目してもらえることも多いが、県外に出て若い働き手を見つけ、地元に戻って子どもを2人産んで、人口3人増やした妻がいるからこそ。妻の方が貢献度は高い。自分の方がどうしても目立つが、妻の方が貢献していても子育て中だしこういう場に出る機会ももっていない。U40のような場に来られないひとたちの声をどう聞いていくかを考えた方がいいなと思う。
- ・養蜂業の方では、いま、ミツバチの飼育規模の拡大に力を入れている。ミツバチを飼育している生産者の中では、県内では一番大きく、四国でも大きい方。超高齢が進んでいる業態で、一番若いのが自分で、次に40歳くらいの人が入って、その次は60代、あとは70代の人だけ。10年15年先のことを考えると、自分ともう一人の40代の人でやるしかない。四国内で考えても、高知0人、愛媛は自分より若い人が2人、徳島1人という状態。10年15年先に、ハチミツはまだいいが、花粉交配を支えなければならぬのが大きな問題。例えば今年はイチゴが高騰しているが、原因は天候不順とミツバチ不足。大産地の栃木では3月で出荷を停止しないとイケないくらいミツバチ不足が深刻。香川だと玉ねぎの種をとる産業があるが、この産業で香川は国内シェア6～7割を占めている。そのうちの4分の1はうちのハチが受粉している。経済規模でいうと80億円分くらいたまねぎをうちのハチが支えていることになる。これを10年15年先に、自分ともう一人の人で支えるのは限界がある。そういった意味でうちが規模を拡大することで、若い人を雇い独立を目指して後継者育成につなげている。農業大学校からの研修生や、小豆島に移住した若い方で養蜂に興味をもっている方がいるので、そういう方々を受け入れる準備を進めている。養蜂業はハチミツを作るだけが仕事ではなく、野菜や果物の花粉交配を支えているということ、農業への影響も大きく、超高齢社会で問題をかかえている業界の話を知っていただけたら。

- ・養蜂業で扱うハチはセイヨウミツバチで、野生では生きていけないから人間が管理してやらないといけない。その管理には絶対的な技術が必要。
- ・ハチミツが採れるかどうかは博打みたいなもの。うちでは採蜜の箱が300箱くらいあって、1箱に3万匹のハチがいて、だいたい年平均7トンくらいのハチミツをとっているが、年によってはゼロの可能性もある。美味しいハチミツをとるにも技術が必要。
- ・花粉交配も、その交配に適切な状態にハチを仕立ててあげないとできなくて、それに技術が必要。

#### 西成委員

- ・ここ3年くらい取り組んでいることで学生プロジェクトが2つある。ひとつは「またたびツアー」。これは学生と新日本ツーリストの連携で、代理店がツアーにしないような内容を学生が企画し、旅行商品として売り出して、添乗も学生がやるというもの。学生も1年～4年までのプロジェクトチームで取り組んでいる。日本観光振興協会という全国規模の学生による観光振興の提案で、最優秀賞をいただいたりして、外部からも高い評価をいただいている。例えば、三豊の農家を巡るツアーは、三豊に学生に是非来てほしいという方がいて、その方のネットワークで、地元の農家の方々を巡って、学生がカレーを作ってゲストハウスで食べるというもの。地元の人も学生が来ることでにぎやかになるし、地域と非常に相性がいい取組みだと感じている。もうひとつは「なえどこ」。学生たちが呼びたい講師をよんだり自分たちが現地に行って話を聞くというもの。月1回なえどこ夜教室として開催。この中だと、ことでんの真鍋社長に仏生山の車庫でお話を聞かせていただきお世話になった。
- ・その他にも、卒論やゼミの勉強などで、U40のみなさんにはお世話になった。U40のつながりを学生たちと結び付けていけたことが自分にとっても成果。
- ・いま国は、ヒト・モノ・カネが地域で還流するようにもっていこうとしている。これは県の課題でもあるが、香川県には大学が少ない。18歳人口が減ってそのまま戻ってこない。大学進学で県外に出ると香川に戻ってこないという現状を脱却していくためには、就職先が必要。産業を作っていくことも大学に求められる。これから実践型インターンシップがどんどん増える。

#### 中筋委員

- ・ラジオ局勤務だが、普段は家庭教師のトライグループの広報担当。春休み前が1年で最も稼ぐ時期で、1月から今朝まで一切休みなしで東北以外全国をとびまわって広告買い付けをやっていた。現地まで行って、人口と広告の費用対効果を考えて買い付けをする作業。あとはCMを作るのに立ち会っていた。
- ・全国を回っている間にも香川での仕事もあって、例えば県予算でファイブアローズの試合にエグスプロージョンを呼んだりした。あと、ビジネスホテル中心に設置していた食の観光パンフが全号配布を終えた。今までにないようなデザインで予想以上に手に取ってもらえた。
- ・第2子が誕生。僕の場合は、僕がこっちに来るのに嫁を連れてきて、子どもも2人できて、あと僕が香川に常駐できないので、サポートとしてデザイン・広告の仕事で3人のスタッフを香川によんだから人口でいうと7人貢献できた。デザインや広告代理の仕事はどこでもパソコンさえあればできるから、生活費の安い香川はオススメだと思う。

#### 人見会長

- ・長野県飯田市に行ってきた。飯田市はまちに大学がなく18歳人口が減っている。そこでまち全体を大学にしようという取り組みをやっているのを見に行った。夜に駅前でマトンを食べた。話をしていると飯田市の駅前はバブル期には地価も高かったが、いまは歯抜けの状態。マスター曰く、いずれ人がはいつてくるだろう

うと思って高い家賃設定のままになっているのが原因。マスターはここでひとり頑張っているという話をしていて、我々のような一匹狼的な人たちがまちを支えているんだなという現場を見た。

- ・小豆島のバス路線再編の協議会を聞きにいった。バス予算と新病院予算を合わせた。島民は船に乗って県立中央病院に通っている。それを新病院でめんどろみれるように、医師を手配して医療を整えようとしている。バス予算と新病院予算を合わせて問題解決するという発想がスゴイなと思った。
- ・高松信用金庫と一緒に「キャリスタ塾」という創業塾的なことを行おうとしている。最近よく出ている馬場さん。制服のリユースショップをしている。3人の子どもがいるシングルマザーで、子どもたちが成長していくにつれて制服が3人分必要だが、高いからなんとかならないかと思ったが、自分が朝から晩まで働いているので制服をちょうだいといえるお母さん友達がいなかった。中古の店に行っても制服は売っていなかった。まだ着られる中古の制服を売ってくれたらいいのという発想で、自分で制服を集めて売りはじめた、そんな方。自分たちの身近な疑問や想いをもとに、商売を試してみませんかという話。馬場さんは自身のお店を全国フランチャイズ化していて、1店舗あたりノウハウ料170万で10店舗契約している。自分たちの身近な疑問や想いをもとに仕事を作っていくという方法を教えるような塾をやっている。

#### 坂口委員

- ・年度末は確定申告が深刻で、フェイスブックで押印の話を書いたが、モノづくりの思考と行政の処理では全然違う脳みそを使わないといけないので、いま大変。
- ・U40で議論することの意味はなんなのかとか、実際に何が形になったのかがいつも議論になる。真鍋さんのおかげで、公開U40で発表したものがすぐ形になったことは、個人的にすごく感動した。行政の予算がついて動くだけではなくて、私たちが交流していく中で、民間の人たちが各々実績を積んでいくというかたち。ひょっとしたら公開U40のような発表の場を作るのではなくて、飲み会だけでもいいんじゃないかと個人的には思うが、行政としては難しいと思う。来年度以降どうするのか難しいなと思いながら考えている。
- ・個人的に身の回りの友人で、ファザーリングジャパンの徳倉さんや高木綱業の高木さんがU40に対し興味をもってくれているので、メンバーとして声をかけてみるのもいいかも。
- ・仏生山コミュニティセンターから歴史ガイドのまちあるき本が出されるそのデザインに携わった。これから4月以降に配れるかなど。その中で提案して実現できたのが、QRコードからグーグルマップをスマホで見られるようにして、そのマップを持ちながらスマホで仏生山のまちを歩いて行けるというもの。そしてそのコンテンツもコミセンの人が研修して、コストをかけずに自分たちで作って発信できるようにした。もうひとつは、仏生山のロゴをデザインした。それをパブリックドメインとして、全く権利を放棄してプレスリリースを出して、誰でも自由に使えるようにした。仏生山がロゴをオープンソースとして開放したということで、地元の人にも喜んでもらった。

#### 真鍋委員

- ・今年度はバタバタした1年。FLAGのオープン、コンコースや2階のデッキの規制緩和、仲間とゲストハウスをオープンさせるなど、場づくりに力を入れた1年だった。場づくりの次は人に動いてもらうしかけ作りをしていこうとしている。そのひとつとして、公開プレゼンにあったピクトグラムの導入をした。
- ・責任なくなんでも言えるのがこういう会の魅力だしクリエイティブだと思うが、一方で僕は今年40歳になる年だしそれだけではダメだとも思う。一口にU40と言っても、20代前半の人と僕なんかでは一回り以上違う。同じU40という括りで若手面すんなよって思っているかもしれない。持っている責任の重さは違

うし、違っているべきだと思う。夢も語りつつ、実行ベースでものごとを考え議論していかないといけない。

- ・今年に入ってからだ、高松空港民営化のプロセスがはじまっていて、いろんな方と色々な話をしている。これもすごく創造都市と関わること。民営化は2年後の4月にせまっている。端的に言うと旅客数の倍増を目標にしているが、国内だけでなく海外も大きなテーマなので、どれだけ外国便のフライトを増やしていくか、外国人の旅客数を増やしていくかを考えている。自分の仕事にとっても高松にとっても大きな話。僕ら自身が高松に来てもらってからの移動の仕方や楽しみ方を考えていかないといけないが、地元はまだまだ盛り上がっていかなくて、なんとなく東京の商社やディベロッパーがちゃちゃっとやってしまうんだらうとみんな思っている。僕は結構大事だと思っていて、それなりに勉強している。もし興味がある人がいたら一緒に勉強しましょう。

#### 鎌田委員

- ・4月24日に東谷農村歌舞伎を開催予定。高松市からはスポーツ振興課の高尾課長と若手職員が出てくれる予定。
- ・今年度は4月29日の農村歌舞伎、6月には人権フェスタでこども歌舞伎、川東校区と東谷の夏祭り、10月24日には琴平でさぬき歌舞伎まつり、そこからは毎週のように文化祭があり、1月30日には国分寺ホールで511人入場いただいた。あとは3月28日大島青松園での公演が今年度最後。

#### 英副会長

- ・3月25・26日に玉藻公園でBONSAI CAFÉを開催予定。最近「盆栽」というキーワードで何かしようという人が増えてきている。例えばエア盆栽とか。地元でも盆栽をキーワードにしたクリエイター活躍しているので、次のBONSAI CAFÉはこういうクリエイターの方とコラボでやろうと思っている。
- ・こう見えてエンジニアでもあり、コンピュータープログラミングをする能力もあって、「Code for Sanuki」というコンピューターの力でまちをよくする「シビックテック」の活動をやっている。3月13日にe-とぴあで、県と市とCode for Sanukiが共催でイベントを行う予定。先ほどの坂口さんの話もシビックテックのひとつだと思う。いまゴミの日は行政などから配られるカレンダーをみていると思うが、ケータイ電話があるから、ケータイで今日は〇〇のゴミの日だよと教えてくれたら便利だなという発想で、そういったプログラムコードを短時間で作ろうというイベント。近日中にフェイスブックで告知する。
- ・本業では四国新聞社で紙以外のWEBサイトなどでどうやってもうけるかという仕事をしている。去年の9月に大型の商品をリリースした。月額5千円でデジタルサービスを受けられるというもの。月額5千円という金額は日本の新聞社では最高値、世界でも1, 2位くらい。新聞社でもニュースの接触の仕方がIT革命に伴って岐路に立たされているので、なんとかしていきたい。
- ・弊社でもインバウンドに力を入れていこうとしている。外国人にとってほんとに必要な情報は何なのかが気になる。先日農水省が主催する飲食店向けのインバウンドセミナーに参加した。日本に来る外国人が居酒屋等で使える日本語をいくつか覚えてくると思うが、一番よく覚えてくる言葉がなんなのか。「泡少な目」なんだそう。ほんとのニーズってわからない。

#### 高島委員

- ・四国内の地域に入って、国の補助事業やそれぞれの持っている事業を受託して1年かけて地域振興に携わっている。四国内だと今年度は15地域くらいに行かせていただいている。例えば、西阿波観光圏。ここはインバウンドに力を入れていて、かなりニッチな層が集落観光といって、地元のおばあちゃんたちと縁側でお茶を飲んで、言葉は通じないけど一緒に過ごすみたいなことをやっている。その

プログラムを増やすというような仕事。ネットとかではわからない面白さがあり、先ほど情報発信不足の話があったが、行ってみてわかるということもあるので、きっちり発信していくのもかっこいいが、発信しない良さもあるかと思う。あとはさぬき市では、平賀源内ならどういふ観光づくりをするかという視点で観光作りを始めていこうとしている。

#### 広野委員

- ・この1月に就職をして普通にサラリーマンをやっている。もともとU40には野菜ソムリエという食の立場で参加していたが、それまでは臨床工学技士として病院で働いていた。病院内の医療機器の操作とかをやっていて、いまは人工透析施設で勤務している。再就職するにあたり、子どもがいることや40歳という年齢の壁を感じた。高松は子育てするには良いところだけど、仕事の問題がすごくある。例えば看護師不足という問題があるが、せっかく国家資格を持っていても子どもがいることで労働条件があわないという現実。私が働いている病院でも、人がなかなか集まっていない。
- ・昨年地域づくりチャレンジ塾に参加。自分でマイプランを作ってそれを実現していこうという塾。私がそこで提案したのが「社長カフェ」。子どもがいるとセミナーとかに行きたくても行けなかった経験がある。そこで、例えば子育てが落ち着いて就職したいと思っているお母さんたちが、労働条件だけで仕事をみつけるのではなく、子供連れでその社長さんと会って話す場を作るということをした。働きやすい環境について話し合える場となった。自分自身も再就職で苦労したので、子育て世代の女性との交流や仕事を考える上で何が大事なのか考えることが大切だと思った。個人的なレベルでも続けていきたい。
- ・島根県雲南市への視察。雲南市ではU40世代の人たちが定住人口を増やす取組みに力を入れている。例えば「コミュニティナース」。みんなが集まれる居場所をつくってそこに看護師さんが来て一緒にお話したり、医師が来て診察や薬をもらう前段階の健康相談できる場づくりをしている。病院、行政、地域の連携が進んだらいいなと感じた。

#### 藤本さん

- ・普段は生活保護のケースワーカーをやっている。課には90人くらい職員がいてそのうちの半分くらいがケースワーカー、1人120～150世帯くらい担当を持っている。担当しているお客さんが次々と亡くなって、クリスマスイブも大晦日もお正月も出勤だった。福祉の最後の砦として、親族もいない身寄りのない人たちを火葬して納骨するまでの仕事をやっている。
- ・仏生山のことは趣味でやっている。今月は自分たちが主催で、まちにベンチをおこうということで、ワークショップの2回目を行う予定。高齢者の居場所づくりとして、古民家再生をしたり、3月には一般社団法人ノオトさんをお呼びして講演、勉強会をする予定。
- ・昨年やったパラダイス仏生山を瀬戸芸にあわせてやろうかと思っている。男木島と仏生山で連携できないかなと思ったりしている。
- ・今日から仏生山での家づくりが着工。

#### 4 今後の進め方

(事務局から今後の日程と3期のメンバー構成について説明)

人見会長

今日は時間がないので、それぞれが意見をメールで提出していただこうと思っているが、事務局との打ち合わせの中で副会長から意見があったのでここで共有したい。

英副会長

単に飲み会でもいいんじゃないかという意見もあったり、ここでの縁から広がりがあったりと、単純に集まっているだけでも十分だと思うが、それだけに税金は使えないから、運営としてはシンプルにありたい。1期のときにビジョンの内容を議論したが、2年半ほど経ってすでに中身がくさってきていたり、U40メンバーにこれを自分たちで作ったという所有感は薄れつつあるのではないかと思う。集まって何かするのであれば、来期はビジョンの見直しに時間を使いつつ、今日のような近況報告を少しはさんだりしていけばいいのではないか。運営そのものを行政メンバーが変わっても継続的にシンプルにやっていけるものにしていかないといけないのではと思っている。

西成委員

U40の仕組みをどうするかは、我々に課せられた重要な宿題だと思っている。特に1期からやっているメンバーにとっては、次に向けてどういう提案をしていくかが大事。U40の仕組みに対して具体的な対策をつくるのは創造都市にとっても意味がある。事務局からある程度の指針を示してもらっていることはありだと思うが、例えばなぜ2期やらないといけないのかとか、そもそも1期が2年間なのかとか、U30でもいいんじゃないかなど、ゼロベースで考え直した方がよいのでは。5月から3回会議があるが、例えばそのうちの2回分はグループに分かれるなどして、U40の仕組みに対する提案を考える時間にしてもよいのでは。そのときには市職員も一緒になって、実際にいま市がどういう風にしてほしいと考えているのかも俎上にのせて、基本的にこの時間内に議論していくのがよいのでは。メールで書いてもどこまでその想いを受け止められるかわからないので。

人見会長

今日のこの時間で議論したかった1・2期を振り返って思うこと感じていることを、ざっくばらんにメールで意見いただくということを宿題にする。

佐々木課長

3年間創造都市に携わって、創造都市推進ビジョンや伝統的ものづくり条例を作った。U40は氷山に例えると、海の上に顔を出している部分が、市役所がU40としてやっているもの。その下には、飲み会や人脈のつながりなど大きい部分があり、ほんとはここが大事。U40について思っていることは各々違うと思うので、みなさんの意見をお聞かせいただければと思う。